

## 1. 鹿児島県の強みと弱み

### 1. 1. 強み

- ・ 「高齢者人口 10 万人対 100 歳以上人口」が全国平均 139.28 に対し、鹿児島県は 208.00 となっている(「平成 22 年度第 1 回あまみ長寿・子宝プロジェクト推進協議会資料」より)。

### 1. 2. 弱み

- ・ 一人当たり実績医療費が全国計 407 千円に対し、鹿児島県は 506 千円となっている(「平成 19 年度 都道府県別 一人当たり実績医療費と地域差指数」より)。
- ・ 平均余命は男 43 位 77.97 歳、女 29 位 85.70 歳と平均値を下回っている(「平成 17 年 都道府県別生命表の概況」より)
- ・ 死因別死亡確率において、男は自殺が 3.19 で 13 位、腎不全が 2.24 で 4 位、老衰が 1.58 で 40 位。女は自殺 1.07 で 26 位、腎不全 3.06 で 4 位、糖尿病 1.18 で 16 位、老衰が 4.69 で 42 位。(「平成 17 年 都道府県別生命表の概況」より)
- ・ 家計支出調査によると鹿児島県は、調味料関係の支出が多く見受けられる(2009 年家計調査)。しょう油は鹿児島市 3 位、みそ 18 位、砂糖 1 位、マヨネーズ 3 位、饅頭 3 位、アイス・シャーベット 8 位

## 2. 考察

鹿児島は一見「健康な地域」と言えそうだが、本質はさほど健康ではないと考える。

「健康な地域」理由の一つとしては、長寿と出生率が平均より高いということである。これは鹿児島、奄美群島区が誇る点と考える。なぜ出生率が高いかは、多角的に視点一つとして、域内での娯楽等を踏まえた上で考えると違う側面が見えるが今回は触れない。

私は、本質は「健康な地域」ではないと考える。理由は弱みに挙げたが、特に気に掛かったのは「死因別死亡確率」の男性の自殺の順位である。自殺の理由は個々あるが、死ななければならぬ状況が発生し、セーフティネットが働かず、自殺に至る地域を「健康な地域」と言えるかは考えたい。そして老衰での順位が低いのも気がかりである。何らかの病気・事故に死亡原因があるのは仕方がないが、この死亡原因自体が、医療費、QOL に関係していると考ええる。

また、男女ともに腎不全で死亡するケースも多いと考える。脳血管疾患での死亡が多いという点から、家計支出のデータを見ると、塩分と糖質の摂取が高いと推定される。味付けの食文化や、黒糖のある生活になんらかの起因があるのではと考えた。